

一生涯を通した歯科保健対策の確立をめざして（２）

心身障害者（児）歯科診療について

（社）富岡甘楽歯科医師会

- 落合慶一 宮下芳子* 入山久美子*
山田一江** 松本裕美** 中島百子**
入沢紀代美**
* 歯科医師会衛生士 ** 在宅衛生士

富岡甘楽歯科医師会では、平成４年５月に口腔保健センターの設立に伴い「各ライフステージにおける歯科保健対策」を立案して一生涯を通した歯科保健対策の確立を目指している。その一環として、平成４年５月より在宅寝たきり者に対して訪問歯科診療を、平成６年１０月より心身障害者（児）歯科診療を開始した。今回は、開始から２年が経過した心身障害者（児）歯科診療の実態を報告する。

心身障害者（児）歯科診療は、毎週水曜日を診療日として開始し、保健センター内の休日救急歯科診療室を利用している。診療時間は、午前９時～１２時、午後１時～４時で、診療スタッフは専任歯科医師１名、歯科衛生士２名～６名で診療にあたっている。運営に関しては、平成７年４月より富岡甘楽地区の市町村から補助金を頂いており、県内の地区歯科医師会が運営するものでは初めての心身障害者（児）歯科診療施設である。

過去２年間の診療日数は、９５日。来院延患者数は５４２名（男性 ２４９名、女性 ２９３名）であり、新患受診者数は１２３名（男性 ４７名、女性 ７６名）であった。また、一日平均来院患者数 ５．７名であった。

来院患者の疾患別分類（表１）では、脳血管障害後遺症が１５９名と多く、ついで知的障害の１３０名で呼吸器疾患や糖尿病などの全身疾患が１００名であった。

このことは、当センターの隣接には、公立七日市病院（７０床）がありその入院患者が、多く来院した為であった。健康時に比べ入院中は、より歯科疾患を有することが示唆される。

表１ 疾患別来院患者

障害名	
知的 障害	１３０名
脳性 麻痺	５８名
てん かん	１０名
ダウン 症	１０名
自 閉 症	２１名
精神 分裂	２９名
肢体不自由	
脳血管障害	１５９名
全身 疾患	１００名
リウマチ性疾患	２５名
	５４２名

処置内容（表2）では、歯冠修復のうちわけは、充填処置 135本、鑄造修復処置 29本であった。また、根管処置のうちわけは、抜髄 37本、感染根管 35本であった。歯冠補綴では、全部鑄造冠 41本、前装冠 30本、乳歯冠 9本であった。欠損補綴では、ブリッジ 23装置、部分床義歯 17装置、総義歯 30装置、外科処置では、永久歯の抜歯 77本、乳歯の抜歯 31本であった。

処置内容から、ウ蝕を放置したままの状態が多く、治療があらゆる処置に及んでいることがわかる。また、欠損補綴に関しては、義歯の製作もされずにいたものや、不適合のため未装着だったものが多かった。

2年間の診療により障害者（児）の口腔内の状態は、かなり回復されたと思われる。しかし、患者本人の口腔に対する関心度が低いことや、口腔清掃が充分に行われないことから、治療終了時の口腔内の状態を維持することは非常に困難である。そのために、患者に応じたりコールシステムを導入している。

今後、積極的な歯科診療とともに、福祉関係施設などへの歯科健診や、歯科衛生士による衛生指導も継続して行きたいと考えている。そのためにも、より充実した歯科医療環境を作り、地域の障害者（児）の健康促進に協力していきたいと思う。

表2 処置内容

歯冠 修復	164本
根管 処置	91本
歯冠 補綴	80本
欠損 補綴	
ブリッジ	23装置
部分床義歯	17装置
総 義 歯	30装置
外科 処置	
抜歯（永久歯）	77本
（乳 歯）	31本